

平成29年度 入学式「式 辞」

四ツ葉学園中等教育学校 校長 田島 公基

桜に続き、多くの草木が花開き春の到来に躍動感を感じる今日の佳き日に、伊勢崎市教育委員会教育長様、PTA会長様をはじめとする、多くのご来賓の方々のご臨席のもと、ここに伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、第九回入学式を挙行できますことは、教職員一同この上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。また、多数の保護者の皆様のご出席をいただき、ありがとうございます。

ただ今、入学を許可いたしました百二十八名の入学生の皆さん、入学おめでとう。大きな可能性を持ち、活力ある新入生を迎え入れることができましたことは、私どもの大きな喜びです。本校は創立九年目の若い学校ですが、一年一年着実な歩みを重ね、伝統を築きつつあります。本校を選び、第九期生として入学した皆さんは、この新鮮な気持ちをいつまでも持ち続け、先輩が築いた伝統をさらに大きくしてくれることを期待します。

本校は、「自学」「自律」「共同」「共生」の四つの目標を柱として、六年間の一貫教育を力強く推進しております。そこで、入学生の皆さんに、次の三つのことを念頭に置いて頑張ってくださいと思います。

一つ目は、「自学」と関連させて、学びに向き合う人になって欲しいということです。本校には、教職員と生徒を合わせると約八百四十人の人たちが生活しています。この中で、私たちは互いに深くかかわり合い、学び合っています。真剣に学びに向き合う生徒とのふれ合いから、教職員もたくさんのことを吸収します。生徒同士も互いに学び合うことで啓発され成長していきます。皆さん一人ひとりが自ら学ぶという気持ちを強く持ち、この四ツ葉学園の教育環境を十分に活用し、互いに学び合うことの大切さを実感して欲しいと思います。チャンスを活かし、周囲のすべての人から教養を受け、学んでいくという謙虚な姿勢で毎日を過ごしてください。私たち教職員も生徒に教えることによって多くのことを学びます。このように生徒と教職員が心をつなげて、互いに高め合っていくことが、四ツ葉学園の強みです。

二つ目は、「自律」「共同」と関連させて、自分に厳しく人にやさしい人であって欲しいということです。四ツ葉学園での生活をとおして、自らやるべきことは何か、やらなければならないことは何かを判断し、主体的に対応していく力や自己管理能力を高めていってください。そして、周囲に困っている人があれば、積極的に支援してください。相手の状況を考えながら、寄り添ったり、励ましたりできるように、互いに支え合う経験を積み重ねながら思いやりの心を育ててください。

三つ目は、「共生」と関連させて、他者と協力できる人であって欲しいということです。私たちは様々な集団や社会の一員として生活しています。今後も文化的・歴史的背景の異なる人たちと向き合い、価値観や特性の違いを乗り越えて協力していかなければなりません。考え方の違いがあっても、しっかりと議論し合意点を見出し、チームの一員として行動できる人材が求められています。本校での教育活動をとおして、自己の役割と責任を自覚し積極的に協力できる力を身に付けていってください。

皆さんの凛々しい姿から、大きな決意が伝わってきます。その中でも、環境が変わることへの不安や授業内容が難しくなることへの心配などもあると思います。そんな時は、何でも相談してください。そのために先生方がいます。本校の教職員は、皆さんを全力で支援することを約束します。

保護者の皆様、今日は、誠にありがとうございます。「本校に入学して本当によかった」と言っていたら、四ツ葉学園中等教育学校の全教職員が、責任をもってお子様の教育を担当させていただきます。

結びに、ご臨席賜りましたご来賓の皆様にご心から感謝申し上げますと共に、本年度も引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。



教職員等の異動

新年度のこの季節は、出会いの時期でもあります。平成29年度、新たに13人の教職員の方々が四ツ葉学園に赴任されました。昨年度末には第三期生を送り出すことができ、四ツ葉学園としての伝統を着実に築きつつある中、より一層の飛躍が期待されるところです。今後につきましても、生徒の夢の実現に向けて教職員一丸となり、ハイクオリティな教育活動を展開して参ります。

以下に転入された教職員を紹介いたします。

《よろしくお願ひします》

【転入された先生】()内は前任校等			
1	教 頭	高橋 明弘	(群馬県教育委員会学校人事課 [管理主事])
2	国 語	塚越 千春	(群馬県立前橋女子高等学校 [教諭])
3	国 語	阿佐美 勝	(伊勢崎市立赤堀中学校 [教諭])
4	国 語	齊藤 孝弘	(群馬県立伊勢崎高等学校 [教諭])
5	公 民	中山 友嵩	(新採用)
6	数 学	中島 裕介	(桐生市立新里中学校 [教諭])
7	数 学	佐藤 和之	(群馬大学教育学部附属中学校 [教諭])
8	保健体育	小高 大徳	(群馬県立伊勢崎高等学校 [教諭])
9	英 語	田野辺陽子	(伊勢崎市立第三中学校 [教諭])
10	英 語	近藤 弓子	(群馬県立中之条高等学校 [教諭])
○非常勤講師等			
11	保健体育	笠原那絵子	(新規)
【事務の先生】			
12	係 長	深澤 清美	(議会事務局議事調査課係長)
13	労務技師	福田みつ江	(学校給食センター第一学校給食調理場)

平成29年度 1学期始業式

<校長式辞より>

今日から新しい年度がスタートします。心新たに、第一歩を踏み出す準備はできていますか。「時間を大切に！」目の前の目標に向かって、着実に一步一步進んで行きましょう。その取り組みをとおして、何事にも前向きに取り組む力、自分自身をコントロールする力、つまり自己管理能力を向上させましょう。

話しは変わりますが、「大きな耳、小さな口、優しい目」この言葉を知っていますか。プロ野球7つの球団で打撃コーチを務めた高島導宏さんの言葉です。選手を常に温かく見守りながら過ごし、選手が悩んで考え、自ら教えて欲しいと願ったときに、優しく手を差し伸べる高島さんの姿に、私たち教職員も、学ぶことが多いと感じました。「大きな耳、小さな口、優しい目」、この言葉から生徒の皆さんも学ぶべきことが多いと思います。例えば、周囲と友好的な関係を築きたいとき、周囲の人の言葉に「大きな耳」を傾けてください。周囲の人を安易に批判したり、いわゆる”うわさ”などに同調したりしないように「小さな口」を心がけてください。そして、周囲の人に「優しい目」で微笑みかけてください。日々の学習に対しても「大きな耳」を傾けてください。先生方が説明する学習内容だけでなく、先生方が伝えようとしている教科の背景や人としての生き方なども聴き取ってください。そして、周囲の仲間に対しても「優しい目」で共に学ぼうと励まし続けてください。対人関係で悩んだとき、「優しい目」を思い出してください。相手の言葉に傷ついたり怒りを感じたりする場面でも、「優しい目」で相手を見つめ直し、相手の立場や気持ちに思いを寄せてみる心の余裕をもってください。自分の主張や立場だけを考えるのではなく、「小さな口」と「大きな耳」で、何が一番大切なのかを冷静に判断し、自分のとるべき行動を決めてください。

3学期に、この一年を振り返ったとき、皆さんの後ろには、通り過ぎた道筋が見えるはずですが、自分なりに、成長できたな、頑張ったなと納得できる1年にしましょう。今年度は「槻ノ輪祭」も開催されます。充実した1年になるよう、みんなで頑張っていきましょう。